

令和2年度

東京都美術館年報

Tokyo
Metropolitan
Art Museum
Annual Report
2020



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切に、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

障害のある方のための特別鑑賞会

建築ツアー

学校連携

展覧会関連プログラム

事業の発信・成果の発表



とびらプロジェクト

とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを紹介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトである。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し2012(平成24)年度より始動。2020(令和2)年度で9年目を迎えた。広く一般から集まったアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、都美の学芸員、藝大の教員や専門家と対話を重ねながら、美術館の文化資源を活かした活動を展開している。本年度は7・8期とびラーに新たに9期とびラーが合流し、オンラインとリアルの両方の場で活動した。とびラーの活動はボランティアではあるが、美術館のサポーターではない。学びと実践をくり返し、能動的なプレイヤーとしてプロジェクトを推進している。とびラーの任期は3年間であり、その間にアートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をデザインし、様々な価値観を持つ多様な人々を結びつける活動を生み出している。1期から6期までの任期満了したとびラーは合計215人となり、本年度も社会のさまざまな場所でアート・コミュニケータとしての活躍が見られた。2019(令和元)年度同様、藝大側の代表教員として日比野克彦(東京藝術大学美術学部長)、とびらプロジェクト・アドバイザーとして西村佳哲(プランニング・ディレクター/リビングワールド代表)、森司(アーツカウンシル東京 事業推進室 事業調整課長)が関わっている。以下、実施プログラムの基本データは事業実績一覧(pp.49-51)を参照。ウェブサイト<http://tobira-project.info>(ページビュー 204, 851)

ラボ)が525回開催された

9期とびラーの応募倍率と本年度のとびラー人数

募集に対し281人から応募があり、書類審査、面接を経て、54人を9期とびラーに決定。約7倍の倍率であった。この54人と、昨年度から更新した7・8期とびラー88人をあわせた計142人で本年度のとびらプロジェクトが始動した。



9期とびラー募集チラシ

とびラー募集の流れと主な年間スケジュール

2019(令和元)年度

- 12月 9期とびラー募集広報開始
- 1月 9期とびラー応募受付開始
- 2月 「とびらプロジェクト」フォーラム
9期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→9期とびラー決定通知

2020(令和2)年度

- 4月 基礎講座(～6月): 隔週土曜日 全6回
- 6月 実践講座(～3月):
鑑賞実践講座 全7回、アクセス実践講座 全6回、
建築実践講座 全8回
- 7月 「Museum Start あいうえの」本年度プログラム開始(※)
- 12月 10期とびラー募集広報開始
- 1月 10期とびラー応募受付開始
- 2月 「とびらプロジェクト」フォーラム
10期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→10期とびラー決定通知
開扉会(かいびかい): 7期とびラーの任期満了式)
- 年間を通じて、とびラーの自主的な学びあいの場(とび

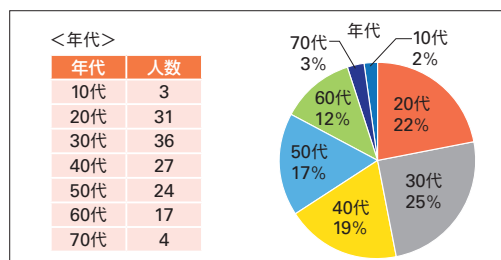
※2020(令和2)年度5月には2019(令和元)年度延期されたプログラムを実施

都美×藝大とびらプロジェクト運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は伊藤達矢(美術学部特任准教授、とびらプロジェクト・マネージャ)、越川さくら(美術学部特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、山崎日希(美術学部特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は稲庭彩和子、熊谷香寿美。専門家委託として石丸郁乃。

とびラーの基本属性

7～9期とびラーの基本属性は次の図のとおりである。年齢や仕事、経験、活動できる曜日などが偏らないよう多角的視点から総合的に配慮した上で選考されている。



7～9期とびラーの基本属性 ※2020(令和2)年4月時点

基礎講座・実践講座をはじめとする学びと実践の場

とびラーは、当館のミッションや藝大からのメッセージをもとにとびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、1年目とびラー全員必修の「基礎講座」でとびラーとしての基本的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。その後、より実践的な活動場面を想定した選択制の「実践講座」で活動への理解を深める。

コロナ禍の本年度は、4月に開講した基礎講座からウェブ会議システム(Zoom)を活用し、オンラインでも例年と同じように学びを深めることを目指した。

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日/全6回/各回約4時間)

アートを紹介してコミュニティを作るための基礎を学ぶ。対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?美術館での鑑賞体験とは?といった問いをテーマに、とびラーの活動を支える基礎的な考え方をワークショップ形式で学ぶ。コミュニケーションの最も重要な要素として、高い発信力ではなく相手の話を状況や発言の文脈に応じてその本意を想像し「きく」受信力を身につけることを目的としている。

本年度の全6回の講座は、すべてZoomを使用して実施した。オンラインの活動は発信側からの講義形式になりがちだが、ハンドサインやチャット、手書きのフリップの使用や、少人数で話し合う時間を設けるなど、オンラインでの活動でもつながりを意識し講座を構成した。また、聴覚障害を持つアート・コミュニケータへのコミュニケーション支援として、UDトークも活用した。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)

講師/伊藤達矢、稲庭彩和子

プロジェクト概要や情報共有ツールについて改めて紹介し、これから活動していく上で必要となるとびラー同士の共通認識をコミュニケーションの中でつくる。

第2回 ミュージアムとウェルビーイング(全とびラー対象)

講師/日比野、森、伊藤、稲庭

これまでとびらプロジェクトで実践してきたアクセスプログラム等を題材に、多様なウェルビーイングを人々との関わりで実現する社会包摂の拠点となるミュージアムのあり方について考える。

第3回 「きく力」を身につける(9期とびラー対象)

講師/西村佳哲

コミュニケーションの基本となる、話をしている相手の全体性に関心を向けて「きく」こと、とびらプロジェクトで大切な「きく力」について、オンラインでの講義と体験を通じて学ぶ。

第4回 作品を鑑賞するとは(9期とびラー対象)

講師/稲庭

作品が存在することによって起こる体験にどのような意義があるのか、作品を鑑賞することの意味について考え、オンラインでの鑑賞を通じて理解を深める。

第5回 この指とまれ/そこにいる人が全て/解散設定(9期とびラー対象)

講師/西村

小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方、とびラーが自主的に活動していくための手法をオンライン講義で学ぶ。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。

第6回 会議が変われば社会が変わる(9期とびラー対象)

講師/青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所代表)

とびラーの自主的な活動において根幹をなす「ミーティング」の場を、参加する一人ひとりが主体的に関わる場とするためのオンラインでの具体的な手法を学ぶ。



基礎講座(第2回)Zoomを使いオンラインで実施

・実践講座(6月以降各講座ごとに適宜実施)

実践的な場面を想定して設けられた3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当。実践の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、アート・コミュニケータとしての学びをより深める。

A 鑑賞実践講座(対話が生まれる場をつくるプロセスを学び、作品やモノを紹介して人をつなぐ場をデザインすることを目標とする)全7回 ※全てオンラインで実施
講師/三ツ木紀英(NPO法人芸術資源開発機構ARDA代表理事)、稲庭、越川

B アクセス実践講座(具体的な社会課題に関わる状況・活動を知ることにより、美術館に行くことが難しい人

が、来館し、利用するために必要な支援を考え企画する力を身につける。障害の有無や社会的な状況に関わらず、人々が美術館にアクセスし易い環境やプログラムについて考え、実践することを目標とする)全8回 ※全てオンラインで実施

講師／星加良司(東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター)、松見幸太郎(NPO法人キッズドア)、村田陽次(東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課)、三坂慶子(NPO法人Sharing Caring Culture代表理事)、西智弘(川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター腫瘍内科・緩和ケア内科、一般社団法人プラスケア)、館野泰一(立教大学経営学部助教)、伊藤、稲庭、越川

- C 建築実践講座(美術館建築への関心を軸に、ミュージアムというパブリックな建築と人々の関わりについて考え、講座での学びを通じ、建物の魅力や背景を理解し、自分の感覚を手掛かりに建築を「味わう力」を身につける)全8回 ※オンライン7回、リアル1回の実施
講師／一般社団法人PARC、佐藤慎也(日本大学教授)、宇田川裕喜(株式会社バウム代表)、山本崇雄(新渡戸文化学園英語教諭)、伊藤、稲庭、山崎、河野佑美(東京都美術館学芸員)

上記講座に加えて、とびラー全員が集合する「とびラステーション」を年に1回開催し、とびらプロジェクトの全体像や今後の方向性を確認しあう機会としている。本年度は、東京都美術館・東京藝術大学・Zoom配信と3つの場を会場に、リアルとオンラインをハイブリッドでつなぐワークショップを実施、100名以上が参加し互いに交流する機会とした。

また、「福祉×アート」を考える藝大の履修証明プログラム Diversity on the Arts Project (略称: DOOR)とも連携し、聴講機会も開かれている。特別展・企画展・上野アーティストプロジェクト展については、展覧会担当学芸員による事前勉強会と開幕後のスタッフ鑑賞研修会場の場が設けられている。加えて、専門家とともに行う野外彫刻洗浄への参加も昨年に続き呼びかけた。

事業 with とびラーによるオンライン・コンテンツの作成

とびらプロジェクトでは、年度当初に事業計画が立てられているプログラムに加えて、とびラーと共に事業のフレームからつくりあげて行く「事業 with とびラー」という仕組みを設定している。「事業」としての推進力と「とびラボ」としての柔軟さによって、高い成果に結びつくことが期待できる。

コロナ禍の本年度は、事業発信の機会としてこの仕組みを活用し、とびラーの視点からとびらプロジェクトの活動

を落語で分かりやすく伝えることを目指すオンライン・コンテンツ「とびらくご」を作成した。制作にあたっては、落語家の三遊亭わん丈を監修に迎え、21名のとびラーがひとり1本の「とびらくご」を作り、とびらプロジェクトのウェブサイトで配信した。



とびらプロジェクトウェブサイト「とびらくご」ページ

とびらプロジェクトフォーラム

とびらプロジェクトの活動とその意義を広く周知させることを目的として、毎年とびらプロジェクトフォーラムを開催している。次年度のとびラー募集のための説明会という趣旨も兼ねている。本年度は、「コロナとコミュニティ デジタル時代の“リアル”に関わる力」をテーマに、コロナ禍でもアナログとデジタルを駆使し、高い熱量をもって活動し続けているプロジェクトの理念やその社会的価値を振り返る機会とした。

第1部はZoomウェビナーを使用しアートスタディールームから配信するとともにYouTubeでも同時配信した。伊藤がとびらプロジェクトの概要を説明した後、2020年度における本プロジェクトの活動を1本にまとめた動画を配信、その後、本年度に特徴的な3つのとびラボ(※詳細はp.39)に参加したとびラーたちと稲庭、西村が語り合うトークセッション「140名の試行錯誤 アートでつながるエネルギー」が行われた。まずは、とびラーがZoomに親しむきっかけとなったとびラボ「VTSフォーラム」、続いてとびラーが一般向けのオンライン・コンテンツを初めて作成したとびラボ「とびラジオ」、最後に、コロナ禍で困難を抱えているような発達障害の子供たちを対象にした美術館に親しむリアルな場でのプログラム「Cozy Cozy アートワークショップ ようこそ!びじゅつかん」が紹介された。フォーラムの当日の参加が難しかった立ち上げメンバーの事前インタビュー動画も配信し、関わったメンバーそれぞれの視点から、ラボでの対話のプロセスを通じて、どのようにコミュ

ニティが育まれていったのが、実感を込めて語られた。続くパネルディスカッションでは「コロナとコミュニティ—デジタル時代の“リアル”に関わる力」をテーマにとびらプロジェクトに設立から関わっているメンバー(日比野・西村・森・伊藤・稲庭)が登壇し活発な意見交換がなされた。なお、西村は拠点である徳島からの参加となった。

第2部は「とびラボ オープンセッション」をオンラインで開催。Zoomの少人数に分かれることができる機能を使って、とびラーが普段の活動を紹介、来場者からの質問にも答えた。

オンラインでの配信となったことで、第1部・第2部あわせて700人以上の参加があり、コロナ禍において貴重な情報発信の機会となった。



とびらプロジェクトフォーラム (感染防止対策をして実施)

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。「とびラボ」は、ある1人のとびラーのアイデアに共感した他のとびラーが集まり3人以上のチームを作るところから始まる。集まったメンバーのできることを組合せ、興味・関心・得意分野を大切に、お互いに「ききあい」、学芸員や大学教員とも相談しながらアイデアを実現させていく。予めデザインしておいた終わり方に従ってチームが解散した後は、また新しいメンバーが集まり新しい「とびラボ」が生まれ出される。とびらプロジェクトでは、このステップを「この指とまれ式」、「そこにいる人がすべて式」、「解散!また結成」と呼んでいる。この活動を経て、オリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」は様々なバックグラウンドを持つとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。コロナ禍の本年度は、Zoomでのミーティングとリアルでのミーティングを併用して行った。特にオンラインのミー

ティングが非常に活発に行われ、その結果、本年度のべ参加者数は前年度の4倍以上となった。

年間開催数 525回 のべ参加者数 7,247人

「とびラボ」から生まれた活動

◎展覧会に関連した一般来館者対象の活動：
特別展

「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」

・「とびラジオ」とびラーが語る5つの浮世絵

本展の作品からとびラーが思いを巡らせ、独自に創作したオリジナルストーリーをラジオ形式で紹介する音声コンテンツ。本展での「障害のある方のための特別鑑賞会」で参加者に配布したウェルカムキット(※p.46参照)のコンテンツの1つとして、とびらプロジェクトウェブサイトで、期間限定で公開した。来館者と直接触れ合う機会が少ない中で、声を通して体験を共有する機会とした。

公募展活性化事業

上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」

・Cozy Cozy アートワークショップ「ようこ書!びじゅつかん」

本展や東京都美術館の空間全体を舞台に、発達障害のある子供とその保護者を対象に鑑賞と造形ワークショップを実施した。昨年度2月に「発達障害の子供たちとよにか・(仮称)」という名称でスタートし、とびラーによる勉強会やトライアルを重ね、内容を充実させた。当日のプログラムの企画だけでなく、事前に参加者に送付したオリジナルノートや、子供にはわかりにくい美術館での暗黙のルールなどにあわせた行動を文字や写真を使って視覚化することで社会的スキルを学ぶことができるラーニングツール(ソーシャルストーリー)の作成もとびラーが手がけた。

◎とびラー対象の活動：

『オヤトコ』わくわくミュージアム、ZoomVTSラボ、IT相談室ラボ、建築ミニ勉強会、VTSフォーラム・リターンズ☆、すごろく&アートカード、筆談deVTS、目隠しdeトーク、ひとりVTS、古い「TO BE」館、Zoomどこまでできるか研究会、音ラボTea &Jam、夏の音ラボ、おうちでものまね都美術館!、展覧会ができるまでラボ、よもやま喫茶、都美館伝説・なに?なぜ?なんで!、STS(Sound Thinking Strategy)、大人ムービー部、MoMAラボ、聴覚障害と都美(手話ラボ)、可視化ラボラトリ、イサム・ノグチ発見研究所、イサム・ノグチの魅力を語ろう、ケアラールとアート、消しゴムはんこラボagain、絵本ラボ、アナログでアートを届けたい、とびラー対象建築ツアー &ガイドトライアル、藝大/藝大生ともっと絡みたいラボ、おこだわりラボ、ACLネットワーク交流会、都美を描くラボ、

自作カメラで上野を撮ろう！ラボ、オラファーエリアソンでVTS/SDGs、リアルVTSラボ、上野ミツバチ考えるラボ、絵から紡ぐ物語(ストーリー)、静寂の美術館を楽しむ、みつけてあなただけの"博色"、「路上生活をしている人にアートを」考えるラボ、夢のイサム・ノグチグッズラボ、平日ラボ、解説の無い建築ツアー、いつでもどこでも対話型鑑賞、アニメーションとVTSを考える、「とびラー」を考えるラボ、トビカン・モーニング・ツアー、みんなで作るアート・コミュニケータ憲章、車椅子で巡る建築ツアー、マイノリティミュージアム、卒展さんぽ 2021、VTSをイサム・ノグチの彫刻ですとは？、おいでよ・ぷらっと・びじゅつかん、野外彫刻を味わう～イサム・ノグチへの道(仮)、ニュー冊子 2021 ラボ、コミュニティについて知る・考える会、旧館に親しむラボ、「花咲くマロニエの木」ラボ

※詳細はとびらプロジェクトウェブサイトのとびラボページを参照のこと。 <https://tobira-project.info/tobilab>

情報共有の仕組み

基礎講座や実践講座に関する情報伝達、とびラボやそこから生まれた活動の周知など、100人を超えるとびラーの情報共有を支える仕組みとして、プロジェクトを開始した2012(平成24)年度よりメーリングリストと用途に合わせたウェブ上の6つの掲示板を整備している。ただし、とびらプロジェクトの活動は直接会って話をするを前提としているため、これらの仕組みはあくまで補助ツールとして運用している。また、情報共有ツールであると同時に次世代とびラーへのアーカイブとしての機能も果たしている。

コロナ禍の本年度は、上記に加えて、オンライン会議システムであるZoomミーティングが情報共有を支える仕組みとして重要な役割を果たした。

これからゼミと開扉会

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後の活動を考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目のとびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進める。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。

本年度のミーティング開催数4回、のべ参加者数47人。「これからゼミ」から生まれた活動は下記の通りである。

- ・藝大生インタビュー ～平山さんと場づくりを考える～平山匠(東京藝術大学 美術教育研究室修士課程)へのオンラインインタビューと対話を通じて、アーティストと協働し人々をつなぐアート・コミュニケータの社会での活動について考える。

上記のような活動を経て、2021(令和3)年3月には3年の任期を満了したとびラーのための「開扉会(かいびかい)」が開催された。本年度は、三密を避けるため講堂とオンライン配信を組み合わせて実施した。任期満了した7期とびラー41人。



開扉式

アート・コミュニケータの活躍と広がり

任期満了後のアート・コミュニケータは、当館内外のさまざまな場で活躍の場を実現している。当館では、任期満了したアート・コミュニケータが運営する任意団体アート・コミュニケータ東京に「障害のある方のための特別鑑賞会」の運営協力を依頼している。館外では、同じく任意団体アート・コミュニケータ東京が、東京都庭園美術館において障害のある方を対象とした「アート・コミュニケータとめぐる特別鑑賞ツアー」や「ベビーといっしょにミュージアムツアー」を実施した。また、神奈川県立音楽堂においては、任期満了者が立ち上げた団体(bridge)が前年度から継続して定期的な建築ツアーを実施している。

一方で、「アート・コミュニケータ」というアイデアは昨年度からさらに広がり、既に始動している札幌文化芸術交流センター SCARTS、岐阜県美術館、たいけん美じゅつ場 VIVA(茨城県取手市)に加えて、長野県信濃美術館(※2021(令和3)年4月に長野県立美術館に改称)及び山口県宇部市において「アート・コミュニケータ」の募集が開始され、具体的な取組みが展開されており、大きな期待が寄せられている。

Museum Start あいうえの

「Museum Start あいうえの」(以下、「あいうえの」)とは、上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクトである。小学校1年生～高校3年生までの全ての子供たちを対象とし、複数の文化施設が持つ豊富な文化資源の観察・鑑賞を通じた統合的な学びを推進。大人と子供が共に学び合う主体性を重視したアクティブ・ラーニング・プログラムを実施することで、生涯を通じて継続的にミュージアムを活用することができる「ミュージアム・リテラシー」を育むことをねらいとしている。あわせて、参加した子供や保護者、教員、とびラー等で構成される文化財を介した人と人のつながり「ミュージアム・コミュニティ」の形成を目指している。

複数の文化施設の活用を促すツール「ミュージアム・スタート・パック」とウェブサイトを中心に、ミュージアム・大学・市民が協働して子供たちの学びに関わり、プロジェクトを推進させている。本年度の子供の参加者は944人。2013(平成25)年の事業開始から累計14,722人の子供がミュージアム・デビューを果たしている。実施プログラムは事業実績一覧(pp.49-51)
ウェブサイト<https://museum-start.jp>(ページビュー／113,987)

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館・アーツカウンシル東京、東京藝術大学
共催：上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

とびらプロジェクトとの連動

「あいうえの」で重要な役割を果たすのが子供たちと一緒に活動する「きく力」のあるとびラー(p.37参照)である。自分に関心を持って耳を傾けてくれる人の存在が子供たちの自己肯定感を育むことにつながる。とびラーたちはプログラムの中で子供たちの伴走役として活動している。親でも先生でもない多様な大人と出会い、豊富な文化資源を共に鑑賞し、大人と子供がフラットに学びあうことで、子供たちのミュージアム体験がより充実したものになることを目指している。他方、とびラーにとっては、「あいうえの」でワークショップの場づくりに参画することが、講座の内容を具体的に理解し実践する学びの場となっている。

Museum Start あいうえの運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は、伊藤達矢(美術学部特任准教授、「あいうえ

の」プロジェクト・マネージャ)、鈴木智香子(美術学部特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)、金盛郁子(美術学部特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は、稲庭彩和子、河野佑美。専門家委託として渡邊祐子(「あいうえの」プログラム・オフィサー)、石丸郁乃。

「ミュージアム・スタート・パック」の特徴

「ミュージアム・スタート・パック」とは、子供たちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キットである。「あいうえの」のプログラムに初めて参加した子供たち全員にプレゼントしている。連携各館を紹介する「ガイドブック(ビビハドトカダブック)」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2冊がバインダーにまとめられている。バインダーには「あいうえの」の秘密の呪文(館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」)がホログラムをあしらってデザインされている。子供たちの意欲をより高めるため、連携各館にパックを持って出かけるとオリジナルバッジを集められる仕組みとなっている。保護者には「あいうえの」を紹介した小冊子を配布。

ウェブサイトのリニューアル

利用者のアクセシビリティを高め、情報をわかりやすく伝え、コンテンツの回遊性を向上するため、ウェブサイトのリニューアルを行った。旧サイトの特徴的なコンテンツであった、連携9館の豊富な参加型プログラムや展覧会情報等を一望できる「ミュージアムカレンダー機能」や、参加者による「冒険ノート」の「投稿フォーム機能」は継続しつつ、新たに、施設のみどころやそこで働く人々のミュージアム体験に関するインタビュー記事等を掲載した「連携各館紹介ページ」を追加した。また、サイトリニューアルにあわせて単色ロゴマークを新たに制作した。なお、SNSを活用した広報として、10月よりInstagramに公式アカウントを開設し、参加者の「冒険ノート」を順次公開している。※リニューアルサイト公開は2021(令和3)年4月

museum start



単色ロゴマーク



リニューアルサイトトップページ

入口としてのアクティブ・ラーニング・プログラム

「あいうえの」ではあらゆる子供たちが参加できるように、3つの入口を用意している。広く公平に子供たちに参加してもらうための「学校プログラム」、ファミリーにミュージアムでの学びの機会を提供する「ファミリー・プログラム」、そして、多様な文化的背景を持つ子供たちを対象とする「ダイバーシティ・プログラム」の3つである。いずれも、大人と子供の学び合いを重視したアクティブ・ラーニングを行っている。

本年度は、オンラインとリアルを組み合わせたブレンディッド・ラーニングや野外彫刻を活用したプログラムなど、今までにない切り口での学びを実現した。

実施したプログラムは以下のとおり。

(1) 学校プログラム

美術館で作品と出会い対話することで、子供たちの見方・感じ方を広げるプログラム。学習指導要領に対応し、言語活動を通じて子供たちの「主体性」「生きる力」を育む。図工・美術に限らず総合学習や国語など授業のねらいにあわせて実施。都美の学芸員や藝大教員が学校教員の相談に応じ、美術館を活用した授業づくりをコーディネートして

いる。当日だけでなく事前授業から事後授業まで教員をサポート。

・スペシャル・マンデー

特別展・企画展の休室日(月曜日)にゆったりとした会場で鑑賞授業を行うプログラム。本年度は対象とする特別展・企画展が中止となったため実施中止。

・うえのウェルカム

上野公園のミュージアムの楽しみ方を知る・学ぶことができる学校対象プログラム。授業のねらいや目的にあわせた幅広い活動を行う。

対象／小、中、高等、特別支援学校・学級(申込状況により、都外の学校も受入)

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により昨年度よりも少ない校数の受入れとなったが、コロナ禍の状況を生かした新しい取り組みを実施することができた。「SDGs(持続可能な開発目標)とミュージアム」をテーマとしたブレンディッド・ラーニング型の探求学習の連続授業、特別展が開催されず空室となっていた企画展示室を活用し学芸員の仕事・展覧会の裏側を紹介するプログラム、美術館の建物や野外彫刻を観察・鑑賞するプログラム、外出が難しい特別支援学校のオンライン授業の受入等である。こうした取り組みを通じて、当館の文化資源を新たな視点で活用するとともに、今後の授業開発等につながるプロトタイプをつくることができた。

全7回開催／参加5校、参加者数473人(児童・生徒数)

実施日：

8月24日(月)オンライン、9月12日(土)オンライン、10月22日(木)リアル：私立東洋女子高等学校1年生(全3回の連続授業)

11月9日(月)オンライン：都立墨東特別支援学校

11月9日(月)リアル：足立区立高野小学校5年生

12月17日(木)リアル：北区立田端小学校6年生

12月17日(木)リアル：台東区立浅草小学校5年生



うえのウェルカム(私立東洋女子高等学校)



うえのウェルカム(足立区立高野小学校)

(2) ファミリー・プログラム

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。鑑賞・観察・造形を通して子供と大人がともに学びあうことを目指している。

コロナ禍の本年度は、まずは2019年度のファミリー・プログラム「ムービー部」について、延期されていた最終回を5月にオンラインで実施した。

その後、本年度事業として、「オンライン鑑賞」と実際に文化施設を訪れる「美術館体験」の2段階からなる「ブレンディッド・ラーニング」形式のプログラム「上野へGO!」を実施した。

・2019年度ファミリー・プログラム「ムービー部」オンライン上映会：

2019年度のファミリー・プログラムの名称「キュッパ・チャンネル」になぞらえた映像発信プログラム。映像作家の森内康博を講師に迎え、子供たちが「ミュージアムチューバー」として、自分が見つけた上野公園のミュージアムの魅力を映像にまとめ発信するものである。

連続5回のうち、映像を上映発表する最終回が2020(令和2)年3月20日(金・祝)に予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期、5月17日(日)にオンラインにて実施した。

実施にあたっては、オンライン環境に不慣れな参加者のために前週にリハーサルを行った。また、上映会終了後には、参加者を交えて連続プログラム全体のふりかえりも行った。

実施日：5月17日(日)

参加者数：子供23人、保護者6人、とびラー53人(※2020(令和2)年3月に任期満了した開扉とびラーも含む)



ムービー部上映会

・「上野へGO!」

実施日：

ステップ1 オンライン

8月1日(土)、2日(日)、11月8日(日)、12月5日(土)
全4日、1日2回・全8回実施

参加者数：子供194人、保護者178人、とびラー106人
ステップ2 リアル

8月22日(土)、9月13日(日)、12月5日(土)、2021(令和3)年3月26日(金) ※2021(令和3)年1月30日(土)は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

全4日、1日4回・全16回実施

参加者数：子供143人、保護者144人、とびラー42人

オンラインで行われたステップ1では、作品画像を複数の参加者で鑑賞する活動を通じて、ミュージアムで本物の作品を鑑賞することへの期待感を醸成することをねらいとした。オンラインでの鑑賞活動においても、とびラーが子供たちの発見や気づきを聞き、子供たちが自由に意見を出し合うことを促した。

実際に文化施設を訪れるステップ2では、「ミュージアム・スタート・パック」を活用したプログラムを行った。参加するファミリーはまずは当館を訪れ、「ミュージアム・スタート・パック」を受け取り、その使い方を学ぶ。その後「ミュージアムのリサーチャーになろう!」という呼びかけにあわせて、自分の目で観察し考えるきっかけとなるツール(指令書)を受け取り、興味関心のある文化施設に移動し、作品を鑑賞。当館を再訪し「指令書」に基づいた発見を「ミュージアム・スタート・パック」の「冒険ノート」にまとめる活動を行った。とびラーは子供たちのそばに寄り添い、発見や気づきを言葉にするサポートを行った。



ステップ1 オンライン



ステップ2 リアル

(3)ダイバーシティ・プログラム

多様な文化的背景を持つ人々が、文化や言語を越えて違いや共通点を知り、相互理解を深めるプログラム。様々な社会的状況にある子供たちを対象に、2016年度から実施している。児童養護施設、経済的困難を抱えた子供をサポートするNPO、外国にルーツを持つ子供をサポートするNPOなど、関連する団体と連携し、文化や言語の違いを超えて、子供や大人が出会い、対話することを目指している。

コロナ禍の本年度は、前年度に引き続き、「やさしい日本語」を使った鑑賞と造形のプログラムを実施した。

・やさしい日本語プログラム 「うつくしい文字ってどんなかたち？」

活動テーマを「うつくしい文字ってどんなかたち？」(“What Makes Letters Beautiful?”)とし、上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」を鑑賞し、墨で書かれた多様な書の表現に出会い、作品を見て感じた気

持ちや美しい文字を自分なりの形で墨を使って表した。オーストラリア、イギリス、カナダ、韓国、日本など、多様な国々にルーツを持つ子供たちが参加した。

実施日：11月23日(月・祝)

1回開催／参加者数：子供12人、保護者・引率者11人、とびラー11人



アートスタディルームでの墨に親しむ活動



展示室での鑑賞(上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」)



アートスタディルームでの制作

あいうえのコミュニティ

「あいうえの」では、「あいうえの」参加者のミュージアムを活用した継続的な学びを支援し、「ミュージアム・リテラシー」を育む、ミュージアムを拠点にしたつながり「ミュージアム・コミュニティ」を支える仕組みを用意している。参加者全員が「あいうえのメンバーシップ」に登録することができ、メンバーには専用ニュースレター（あいうえの通信）を発行。ミュージアムや文化財を介したコミュニティの形成へのステップを継続的に創出している。本年度は、ニュースレターを全4回発行した。

また、「ミュージアム・コミュニティ」においては、とびラーは重要なパートナーであり、とびラーの実践的な学びの場を創出することで、とびラーにコミュニティの一員として主体的に関わってもらおうことを目指している。この目的を実現するため、全てのプログラムの前後には、事前の準備会と事後の振り返り会を実施している。

本年度は事前の準備会を35回実施、また、全てのプログラムの後には振り返りを実施した。

実施回数：35回

参加者：とびラー 514人（※2020年3月に任期満了したとびラー 10人を含む）



学校プログラム準備会



ダイバーシティ・プログラム準備会

・アンバサダー・プログラム

「アンバサダー・プログラム」とは、「あいうえのコミュニティ」を広げる取組みの1つであり、とびラー自らが自身の属するコミュニティから参加者を募って、「あいうえの」を紹介するものである。

自身が属するコミュニティの子供やその保護者を対象に、「あいうえの」の趣旨やコンセプトを自らの言葉で紹介した上で、上野地域のミュージアムを体験するプログラムを企画・立案することで、とびラーの「あいうえの」に対するより深い理解を醸成することを目指している。

本年度は、2つの団体（※）との連携が企画され、うち1つの団体を対象に、ファミリー・プログラム同様に、オンライン鑑賞とリアル美術館体験を組み合わせたブレンディッド・ラーニング型のプログラムが行われた。

参加団体：Miracle Kids(ミラクルキッズ)Gakugeidai

実施日：9月26日(土) オンライン、11月3日(火・祝) リアル

参加者：子供36人、保護者・引率者53人、とびラー 37人
※2団体のうちもう1団体との連携については、2021(令和2)年3月のプログラム実施を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期。2021(令和2)年4月4日(日)に実施した。



アンバサダー・プログラム

障害のある方のための 特別鑑賞会

普段は来場者が多い特別展を、障害のある方がより安心してゆっくり鑑賞できるように、休室日に事前申込制で「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催している。

本年度は「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」、「没後70年 吉田博展」にて各1回ずつ実施、合計557人の参加者があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、身体障害者手帳等をお持ちの方を対象とする参加者定員を昨年度までの700人から大幅に削減。「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」では、250人とその介助者1人まで、「没後70年 吉田博展」では400人とその介助者1人までとした。また、展示室での混雑を避けるため、受付を前年度までの午前・午後と大きく分けた2部制から、1時間ごとの時間指定制に変更した。とびらプロジェクトと連動し当日の運営には総計89人のとびらラーが参加した。任期満了したアート・コミュニケータから構成される一般社団法人「アート・コミュニケータ東京」にも運営協力を依頼し、事前準備を経て総計58人の「アート・コミュニケータ東京」会員が参加した。

本年度独自のプログラムとしては、「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」において、アート・コミュニケータからのおもてなしの気持ちを伝え、コロナ禍でもゆるやかに参加者をつながることを目指した「ウェルカムキット」というプレゼントを配付。美術館での思い出を募集する「お手紙プロジェクト」や「とびラジオ（※p39参照）」等を実施した。

[運営協力：任意団体アート・コミュニケータ東京]
9月14日(月)「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」

2021年3月22日(月)「没後70年 吉田博展」
※各日とも開催時間は10:00～16:00、入室時間は1時間ごとの時間指定制
(展覧会が中止となった「ボストン美術館展 芸術×力」、「イサム・ノグチ 発見の道」、「世界遺産ローマ展(仮称)」にて予定していた鑑賞会は中止となった。)



ウェルカムキット

建築ツアー

「とびラーによる建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を味わうプログラムである。建築家が込めた思い、歴史、建物の色・デザインといった建築を楽しむポイントを切り口に、当館の建築空間をとびラーと対話しながら散策する。ガイドを務めるとびラーそれぞれのオリジナリティが発揮された独自のプログラムを展開している。奇数月の第3土曜日14時から開催。

コロナ禍の本年度は、1回の参加者定員を前年度までの30人から15人に削減し、参加方法も事前予約制とした。また、実施当日はソーシャルディスタンスを保つため、2～3人の少人数のグループにガイドを務めるとびラーが1人付き、ワイヤレス無線機を使いながらツアーを実施した。実施日：7月18日(土)、9月19日(土)、11月21日(土) 全3回開催、参加者計40人。

※5月、2021(令和3)年1月、3月の開催については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

上記の定例のツアーに加え、今年度初めての試みとして、とびらプロジェクトの建築実践講座と連動し、「Museum Startあいうえの」のファミリー・プログラム「上野へGO! ステップ2 リアル」(※詳細はp.43)の参加者を対象とした「こども建築ツアー」を開催した。建築実践講座の一環として、子供たちが建築をじっくり観察できるようになるための多様なプログラムをとびラーが複数のチームにわかれて企画し、その中の3チームのプログラムを実施した。実施日：2021(令和3)年3月26日(金) 全5回開催、参加者：子供21人、保護者21人。

また、多言語対応として、前年度に引き続き、ユーザーの端末の使用言語にあわせて翻訳文を表示することができるQRTranslator[®]システムを採用したウェブコンテンツを運用。「トビカンみどころマップ」について、システムにより生成される15ヶ国語の翻訳表示が可能となっている。



こども建築ツアー

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに学校連携がある。学習指導要領にも学校と美術館との連携が明記されており、今後もさらなる連携が求められている。当館では、2013(平成25)年度から「Museum Start あいうえの」(詳細はpp.41-45)が始まり、小・中・高校生向けのプログラムに特化した形で拡充されている。ここでは、年間を通じた学校対応や教員のための研修会の開催や受け入れ、都内教育機関を対象とした観覧料免除申請、インターンシップの受け入れ等について触れる。

2020(令和2)年度に実施したプログラムは以下の通りである。(事業実績一覧はpp.49-51参照)

年間を通じた学校対応と観覧料免除申請(都内教育機関対象)

年間を通じ、教員からの電話による来館相談に応じている。また、学校教育活動として特別展・企画展・上野アーティストプロジェクトを観覧する場合には、事前申請により高校生と引率教員の観覧料を免除。コロナ禍においても、様々な環境にある児童・生徒の美術館での学びの機会の担保に寄与することを目指し、上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」及び「没後70年吉田博展」にて実施した。(※東京都内の小学・中学・高校生、並びにこれらに準ずる方と引率の教員に限る)。

参加者数は児童・生徒88人、引率教員10人。

教員向け研修

学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための研修プログラムとして「ティーチャーズ・デイ」を開催している。本年度は2021年2月に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

研修協力としては、小学校教員の依頼により、東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修を「Museum Start あいうえの」のファミリー・プログラム「上野へGO!」で受け入れ。コロナ禍での美術館におけるオンラインでの学びの実践を体験する機会を提供した。

ティーチャーズ・ウィーク

例年、小・中・高等学校・特別支援学校の教員を対象に、特別展及び企画展の開幕後最初の土曜日から次の日曜日までを教員が無料で展覧会を鑑賞できる「ティーチャーズ・ウィーク」とし、美術館での鑑賞授業を検討してもらう場としている。

本年度は、上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」のみでの実施となった。

参加人数5人。

専門的人材の育成

美術館を支える専門的な人材育成を行っている。将来の文化芸術活動を支える人材の育成に寄与するため、主に文化施設の事業や運営に関連する分野を専攻する大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、若干名をインターン生として受け入れ、現場を通して学ぶ機会を提供している。本年度は2人を受け入れ、オンライン及びリアルな場での実践的な学びを深めてもらった。

また、依頼のあった大学の学芸員課程の授業等を受け入れ、アート・コミュニケーション事業の理念や活動をオンラインで伝える機会とした。対応校3校、参加学生33人。

加えて、昨年度に引き続き、博物館の学芸担当者等を対象とする文化庁主催の「ミュージアム・エデュケーション研修～多様な学び手とのかかわりを考える～」への協力も行った。なお、コロナ禍の本年度は、参加者数を半分に縮小した上で行われた。



建築ツアー参加者に対応するインターン生

展覧会関連プログラム

当館で開催される特別展、企画展、連携展、コレクション展をより深く理解し、より豊かに楽しんでもらえるよう、開催期間中に様々なプログラムを行っている。

2020(令和2)年度に実施したプログラムは以下の通り。
(事業実績一覧はpp.49-51参照)

1 特別展関連プログラム

中学生以下の子供たちを対象に、会場内で作品の絵を描くことでより丁寧な鑑賞につなげることを目的とする鑑賞ツール「とびらボード」(磁気式のお絵かきボード)の貸出を行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。また、例年作成していた、展覧会のテーマや内容をわかりやすく伝える特別展ジュニアガイドについても、本年度は発行が中止となった。

「没後70年 吉田博展」では、関連プログラムとして、からだ全体で作品をあじわうダンス・プログラム「ダンス・ウェル」を初めてオンラインで2回実施した。期間限定でプログラム当日の様子をまとめた動画の公開も行った(※詳細はp.17)。



ダンス・ウェル(講師の白神ももこ氏と酒井直之氏)

2 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーの発案により、上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」にて、プログラムが開催された。(詳細はp.39参照)



CozyCozy アートワークショップ ようこ書! びじゅつかん

事業の発信・成果の発表

「Museum Start あいうえの」子ども環境学会賞 受賞

公益財団法人子ども環境学会が公募する「2019年度(第15回)子ども環境学会賞」にて、ミュージアムを介した社会参加のデザインとして「Museum Start あいうえの」が「活動賞」を受賞した。4月に受賞発表、11月に授賞式が行われ、「こどもの環境」に関わりのある教育学や社会学、環境工学といった様々な学問分野の専門家に対して、アート・コミュニケーション事業を広く発信する機会を得た。

審査委員からは「子どもが主体的に参加し、主体的に遊び・学ぶ姿勢に寄り添った取組みにより、子ども主体の実践活動を生み出す新しい文化教育活動として高く評価された。特に、現代社会の課題として、このような芸術系の作品などに触れる機会が少なくならざるを得ない貧困家庭や養護施設の子どもたちに、外部団体とも連携してアートに触れる機会をつくり、そうした状況を克服して子どもたちの承認欲求に答えて自己肯定感を育む取組みやダイバーシティプログラムによって困難をかかえる子どもたちへの支援にむかう姿勢に多大な共感を覚える。また、関心ある大人が子どもたちを受け入れる「きく力」を育むファシリテータとしての学びを展開した後、3年を上限とするファシリテータ経験を積めるという仕組みは、多くの大人が世代や性別を超えて子どもの学びに参加できる場の提供であり、こうした取組みが全国に増えていくことを期待したい。」というコメントが寄せられた。



活動賞受賞賞状

社会包摂をテーマとする財団内連携事業の実施

コロナ禍での文化の持つ社会包摂機能を改めて考える機会として、東京都、東京文化会館、アーツカウンシル東京主催、当館及び東京都現代美術館が連携し「社会包摂につながるアート活動のためのフォーラム「コロナ禍に社会包摂アート活動を考える～美術館とホールのオンライン/オフライン事例から」をオンラインで開催。本年度の当館の実践を発信するだけにとどまらず、連携を通じて東京都の文化政策を担う財団として存在感を高めることを目指した。

アート・コミュニケーション事業2020(令和2)年度 実績

2020年度アート・コミュニケーション事業のプログラム参加のべ総人数：15,365人

とびらプロジェクト(P.36-P.40) プログラム参加のべ数 11,762人 / アート・コミュニケータ登録者数142人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびら とびら	開扉 とびら	一般 参加者等		
基礎講座	4月11日、25日、5月9日、23日、6月6日、20日 いずれも土曜日	6回	476	0	0	476	
鑑賞実践講座	6月22日(月)、29日(月)、7月6日(月)、25日(土)、 26日(日)、8月31日(月)、10月12日(月)、11月2日(月)、 2021年1月25日(月)	のべ9回 (全7回)	471	0	24	495	
アクセス実践講座	6月28日、7月5日、8月30日、10月4日、12月13日、 2021年1月10日 いずれも日曜日	6回	432	0	60	492	
建築実践講座	6月27日、7月18日、8月1日、9月26日、10月24日、 11月24日、12月12日、2021年1月9日 いずれも土曜日	8回	430	0	0	430	
特別鑑賞会に関する準備講座	8月15日(土)	1回	56	0	0	56	
10期とびら 2次面接	2021年3月12日(金)、13日(土)、14日(日)	3日間	0	0	130	130	
とびらステーション	12月19日(土)	1回	108	0	0	108	
開扉会	2021年3月28日(日)	1回	116	0	0	116	
とびらプロジェクト・フォーラム	第一部：「コロナとコミュニティ—デジタル時代の “リアル”に関わる力」 第二部：「とびらボ オープンセッション」	1回	74	0	451	525	
事業withとびら	「みんなで作ろう！とびらくご」	10月31日(土)、11月1日(日)、15日(日)、12月7日(月)、 14日(月)、20日(日)	6回	85	0	0	85
講座連携プログラム	Zoom接続テスト	4月5日(日)、9日(木)	2回	43	0	0	43
	とびらボについて考える会	5月16日(土)	1回	115	0	0	115
	実践講座説明及び第3回基礎講座視聴会	5月23日(土)	1回	106	0	0	106
	スタッフと考える会	10月31日(土)	1回	12	0	0	12
	アクセス実践講座連動 OriHime体験	10月18日(日)、31日(土)	2回	9	0	0	9
都美連携プログラム	スタッフ鑑賞研修会(没後70年 吉田博展)	2021年1月28日(木)	1回	23	0	0	23
	都美セレクショングループ展2020事前勉強会	8月30日(日)	1回	56	0	0	56
	特別展事前勉強会(没後70年 吉田博展)	2021年1月10日(日)	1回	56	0	0	56
	特別展事前勉強会(イサム・ノグチ 発見の道)	2021年1月23日(土)	1回	44	0	0	44
	企画展事前勉強会(Walls & Bridges 世界にふれる、 世界を生きる)	2021年1月31日(日)	1回	24	0	0	24
	野外彫刻洗浄	11月16日(月)	1回	17	0	0	17
	「障害のある方のための特別鑑賞会」準備日	9月6日(日)、12日(土)	2回	65	0	0	65
	「障害のある方のための特別鑑賞会」会場下見	8月14日(金)、18日(火)、19日(水)、20日(木)、 21日(金)、25日(火)、26日(水)、27日(木)、28日(金)	9回	38	0	0	38
	「とびらによる建築ツアー」事前準備会	7月11日(土)、9月5日(土)、12日(土)、11月7日(土)、 2021年3月6日(土)	5回	48	0	0	48
	「とびらによる建築ツアー」共有会	2021年3月20日(土)	1回	25	0	0	25
	「とびらによる建築ツアー」トライアル	9月5日(土)、12日(土)	2回	10	0	0	10
	「子供建築ツアー」事前準備会	2021年3月6日(土)、20日(土)	2回	25	0	0	25
	NPO法人ARDA三ツ木紀英氏 修士論文研究発表会	2021年3月28日(日)	1回	94	0	0	94
藝大連携プログラム (講義など)	藝大生インタビュー	10月～12月	9回	30	0	0	30
とびらボ	とびらボ ミーティング	4月～2021年3月	525回	7,247	0	4	7,251
とびらボ発プログラム(上野 アーティストプロジェクト展)	Cozy Cozyアートワークショップ ようこそ！びじ ゅつかん	12月6日(日)	1回	24	0	15	39
これからゼミ	これからゼミ ミーティング	4月～2021年3月	4回	47	0	0	47
視察対応等のアート・コミュ ニケーション事業連携	のべ55団体	4月～2021年3月	55回	13	0	181	194
開扉とびらとの連携	スタッフ鑑賞研修会、特別展事前勉強会、障害のある 方のための特別鑑賞会・準備日・会場下見、とび らボミーティング	4月～2021年3月	41回	0	268	0	268
合計			10,472	268	1,022	11,762	

※鑑賞実践講座、アクセス実践講座の一般参加者は、藝大の履修証明制度「Diversity on the Arts Project」受講生

Museum Start あいうえの(p.41-p.45) プログラム参加のべ人数 2,316人

プログラム名	連携団体・学校	開催日	回数	参加者数			参加者計
				とびラー ※3	こども	保護者・ 引率者等	
学校プログラム※1 ・うえのウェルカム 5校 参加生徒・児童数473名	私立東洋女子高等学校	8月24日(月)、9月12日(土)、10月22日(木)	1回 (3日間)	34	264	18	316
	足立区立高野小学校	11月9日(月)	1回	28	59	4	91
	都立墨東特別支援学校	11月9日(月)	1回	12	13	2	27
	北区立田端小学校	12月17日(木)	1回	29	83	6	118
	台東区立浅草小学校	12月17日(木)	1回	24	54	4	82
ファミリー・プログラム	ムービー部(リハーサル、上映会、ふりかえり)	5月10日(日)、17日(日)	3回	73	55	9	137
	上野へGO!ステップ1 オンライン	8月1日(土)、2日(日)、11月8日(日)、12月5日(土)	8回	106	194	178	478
	上野へGO!ステップ2 リアル※2	8月22日(土)、9月13日(日)、12月5日(土)、2021年3月26日(金)	16回	42	143	144	329
	Zoom接続テスト会(上野へGO!ステップ1 オンライン)	7月30日(木)	1回	0	2	3	5
ダイバーシティ・プログラム	やさしい日本語プログラム「うつくしい文字って どんなかたち？」	11月23日(月・祝)	1回	11	12	11	34
学び合いカフェ	各プログラムのとびラー対象準備日	5月～2021年3月	35回	514	0	0	514
アンバサダープログラム	Miracle Kids(ミラクルキッズ) Gakugeidai	9月26日(土)、11月3日(火)	2回	37	36	53	126
専門家教育	国際基督教大学	5月23日(土)	1回	0	29	0	29
視察	のべ30団体			0	0	30	30
合計				910	944	462	2,316

- ※1 スペシャル・マンデーは対象となる特別展・企画展が開催中止のため実施中止
- ※2 2021年1月30日(土)は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止
- ※3 ムービー部のとびラー人数には15人、学び合いカフェのとびラーの人数には10人の開扉とびラーを含む

障害のある方のための特別鑑賞会(p.46) プログラム参加のべ人数 646人

プログラム名	開催日	回数	参加者数		参加者計	
			とびラー	一般参加者等		
障害のある方のための特別鑑賞会※	The UKIYO-E 2020 ― 日本三大浮世絵コレクション	9月14日(月)	1回	55	271	326
	没後70年 吉田博展	2021年3月22日(月)	1回	34	286	320
合計				89	557	646

- ※6月8日(月)、10月26日(月)、2021年3月1日(月)は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止
- ※開扉とびラーの参加者は、「開扉とびラーとの連携」としてとびらプロジェクトでカウント

とびラーによる建築ツアー(p.46) プログラム参加のべ人数 133人

プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計
			とびラー	開扉とびラー	一般参加者等	
とびラーによる建築ツアー※	7月18日、9月19日、11月21日、いずれも土曜日※	3回	38	0	40	78
こども建築ツアー	2021年3月26日(金)	5回	13	0	42	55
合計			51	0	82	133

- ※5月16日(土)、2021年1月23日(土)、3月20日(土)は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

学校連携 (p.47) プログラム参加のべ人数 268人/インターン受入人数 2人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計	
			児童・生徒等	教員等*		
観覧料免除申請 (都内教育機関)	上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」	11月18日(水)～2021年1月7日(木)	3回	47	7	54
	没後70年 吉田 博展	2021年1月26日(火)～3月28日(日)	2回	41	3	44
教員向け研修※	中堅教諭等資質向上研修I受入(大田区立久原小学校)	8月2日(日)	1回	0	1	1
教員向け研修 ティーチ ャーズ・ウ ィーク	上野アーティストプロジェクト2020「読み、味わう現代の書」	11月21日(土)～29日(日)	1回 (10日間)	0	5	5
専門的人材の育成	立教大学	4月11日(土)	1回	1	0	1
	政策研究大学院大学	7月25日(土)	1回	15	1	16
	東京都立大学	11月28日(土)	1回	17	3	20
	文化庁主催 第10回ミュージアム・エデュケーション研修	10月7日(水)～9日(金)	1回 (3日間)	57	70	127
合計				178	90	268

※2021年2月19日(金)に予定していた教員向け研修「ティーチャーズデイ」は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

展覧会関連プログラム(p.48) プログラム参加のべ人数 55人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等*		
没後70年 吉田博展	ダンス・ウェル	2021年2月23日(火)、28日(日)	2回	0	0	55	55
合計				0	0	55	55

事業の発信・成果の発表(p.48) プログラム参加のべ人数 185人

プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等*		
財団内連携事業	社会包摂につながるアート活動のためのフォーラム 「コロナ禍に社会包摂アート活動を考える」	2021年1月26日(火)	1回	0	0	185	185
合計				0	0	185	185

*学校連携、展覧会関連プログラム、事業の発信・成果の発表の教員等/一般参加者等には視察者、講師等を含む

令和2年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2020

発行日／令和3年9月

執筆・編集／東京都美術館

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921(代表)

FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum, 2021

